

# キラリ★ 話題の「ひと」



こまがた ただはる  
**駒形 忠晴 さん**  
(葛生西)

○プロフィール  
佐野市教育委員、  
栃木県石灰工業協同組合理事長、  
日本女性会議2019さの総務部長

## 文化と教育のまちづくり

佐野市役所庁舎の玄関ホール吹き抜けに、大きなフレスコ壁画「太陽と岩山」高橋久雄さん作」があります。フレスコ壁画は石灰を原料としており、新庁舎建設を記念し栃木県石灰工業協同組合から寄贈されました。制作中の葛生伝承館をはじめ栃木県庁3階天井、佐野駅前交流広場はるぼーと、葛生行政センターなど県内16カ所にあります。駒形さんは8年前、組合の設立、越名河岸、佐野駅馬車鉄道など組合の歴史を調査し、石灰組合設立100周年式典でその話をされました。栃木県石灰工業協同組合は、明治20年石灰同業組合に始まり、当時たくさんの同業社が乱立する中、田中正造が調整役となり石灰同業組合の設立となったそうです。栃木独自の石灰焼成施設である「谷焼窯」が発明され江戸では八王子の石灰と並び使用されました。

理事長として90周年記念事業（前吉澤慎太郎理事長）の「フレスコの街」を継続しフレスコ壁画普及に尽力されています。

中学生の時には、陸上競技800m走で栃木県記録を更新した活発な少年だったそうです。また、佐野

市の教育委員として2022年に葛生でスタートする小中一貫校へ尽力し、「葛生産業協会」と「まちづくり葛生」がスポンサーとなり、各自の能力に合わせた教育ができるようにタブレット寄贈を予定しているそうです。

そして「2019年佐野開催の日本女性会議で総務部長をさせて頂くことで、これまでとは違った視点から佐野市発展のお手伝いでき、新しい発見がたくさんあります」と駒形さんの活躍の場は広がります。

ご自身の食べるお米を作り、「食」の楽しさ、大切さを日々実感しているそうで「これからも佐野市の文化と教育そして食のまちづくりのお手伝いをさせて頂きたいと思っています。佐野市に定住し、佐野市を愛してくれる子どもたちが増えてくれることを願っています」  
(市民記者 永倉文子)



フレスコ壁画除幕式での駒形さん(右)

## 市長からの

### メッセージ



朝晩の冷え込みに秋の深まりを感じるようになりました。皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

先月4日の台風21号は、近畿地方を直撃し、記録的な暴風により大きな被害を引き起こしました。高潮被害を受けた関西国際空港がある泉佐野市とは、一昨年、災害時における相互支援協定を締結しており、暴風により人家の屋根瓦の一部が飛ばされる被害が甚大であるとの情報を受け、現場で不足しているブルーシートを300枚、すぐさま発送しました。翌日、泉佐野市の千代松市長から、迅速な対応への感謝の電話をいただきました。災害時はお互い様ですので今後も協力し合っていきたいと思えます。

また、6日に発生した北海道胆振東部地震では土砂崩れや北海道全域が停電するなど、こちらも甚大な被害が発生しました。亡くなられた方のご冥福と一日も早い復興をお祈りいたします。先日30日には佐野市総合防災訓練を実施しましたが、これらの災害を教訓とし、防災・減災に向けた日頃の備えと意識の向上を図っていきたいと思えます。

先月から各地域で敬老会が開催されています。本年度、本市で100歳を迎えられる方は男性3人、女性19人であり、100歳以上の方は総勢74人と昨年と比べ7人増となりました。最高年齢者は108歳の女性の方です。毎年10月になると100歳の方々を慰問しておりますが、今年も皆さんの笑顔にお会いできることを楽しみにしております。

秋本番、実りの秋、収穫の秋です。その他、芸術、スポーツ、読書、食欲の秋など皆さんはどんな秋を満喫されますか。

岡部正英



## 第14回佐野市民体育祭

8月下旬から9月にかけて、市民体育祭が開催され、市内各支部を代表する選手たちが球技や陸上競技などで熱い戦いを繰り広げました。

総合優勝したのは植野支部でしたが、どの支部の選手も老若男女力を合わせ、残暑厳しいなか、さまざまなスポーツを楽しんでいる様子でした。参加された皆さん、お疲れさまでした。



## 第31回くずう原人まつり

8月25日(土)・26日(日)の2日間にわたり、葛生の嘉多山公園で開催されました。

オープニングでは原人に扮したスタッフによる火おこしや、青藍泰斗高校吹奏楽部の演奏、また、まつりテーマ「くずうから夢と元気を」を横断幕に大きく描く書道パフォーマンスを同校書道部が披露し、まつりが盛大にスタートしました。

ステージでは、バンド演奏やダンス、和太鼓の共演などがまつりを盛り上げ、またふれあい動物園や親子わいわいコーナーなども設けられ、家族連れなどが笑顔でまつりを満喫していました。

また「原人チャレンジ」では、弓矢・丸太切り・火おこしのタイムトライアルが行われ、原人まつりならではのイベントで盛り上がりを見せていました。



迫力の和太鼓演奏



原人チャレンジでの火おこし

動詞の頭に、フンやブンという接頭語が付くと、意味を強めます。フンの多くは、「踏み込む」をフンゴムというように、「踏み」が変化したものです。また「フン」の多くは、「打ち欠く」がブツカクとなるように、「打ち」が変化したもので、佐野方言によくみられます。では、「フン」や「ブン」の付いた例語を挙げ、その語の意味やたらきなどをみてみましょう。

「フンドス」は、先のとがった竹が足などに刺さって、突き抜けることを言います。「踏み」と「通す」が結合したものです。「とげをフンドシタ」「切り株にフンドシて大けがした」などといえます。

「フングス」は、踏みあやまって足首をねじったり、ねんざしてくじくことを強めたことばです。「踏み」「返す」が結合し変化したものです。「チツチャナ石ツコだったんだけど、踏みちがえてフンゲシチャッタ」

「フンジャブス」は、踏みつぶすを強めたことばです。つぶすことを方言でチャブスというので、「踏み」と「チャブス」が結合しフンジャブスとなったものです。さらに変化して、フンジャスともいいます。

「フンマース」は、風がくるくる吹き回すを強めたことばです。「打ち」と「回す」が結合し変化したものです。「ツエー(強い)フンマースだったねえ」

「フンナガル」は、転ぶ、倒れるを強めたことばです。ナガルは転ぶ、転倒するを強めたことばです。「打ち」と「ナガル」が結合し変化したものです。「駆けつくらしてたらフンナガッて大けがした」

(市民記者 森下喜一)



フン・ブンは意味を強める

今回の表紙 8月11日、新たな佐野ブランド大使として、本市出身のラッパー KOUHOU SANO DOTAMA さんが就任されました。また DOTAMA さんが主演し、作詞した佐野市公式プロモーションビデオ「MY CITY」が完成しました。ぜひご覧ください！